

天災は忘れたころに

地震

必ずやってくる！

6千400人以上の犠牲者を出した阪神・淡路大震災が発生した時の状況を覚えていますか。今年には関東大震災からちょうど80年目。この間、東京では死者を伴うような大きな地震は発生していません。みなさんは心のどこかで「東京では大地震は起きない」と思い始めてはいないでしょうか。

「のどもと過ぎれば」といいますし、「天災は忘れたころに」ともいわれます。私たちは過去の大地震の被災した経験や記憶を決して風化させてはなりません。

地震の歴史からみると、三鷹市を含む南関東地域はすでに地震の活動期に入り、予知不可能な直下地震がいつ発生してもおかしくない状況であるといわれています。

1月15日～21日は、防災とボランティア週間です。この機会に東京の大地震の歴史を確認し、「大地震は必ずくる」ということをしっかりと心に刻み、大地震の発生に備えていきましょう。

1月15日～21日は防災とボランティア週間

思い出して!!

忘れた時に

襲う大地震

1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）のとき、そして1923年（大正12年）の関東大震災（関東大震災）のとき、被災者の多くが「まさかここで大地震が発生するとは思わなかった」と語っています。

忘却の

被災体験

本当に地震発生の可能性がなかったのでしょうか。阪神・淡路大震災から8年が経過した現在、実際に被災した地域でも記憶の風化がみられるそうです。まして東京を襲った大地震は80年前の関東大震災が最後です。

歴史が語る

東京の大地震

東京を襲う危険性のある地震には、相模湾沖を震源とする海溝型巨大地震と東京の真下を震源とする直下地震の2つのタイプがあります。

海溝型巨大地震は、被害地域が半径60キロ程度となる大規模な地震で、南関東地域においては20年程の周期で繰り返すといわれ、最近では1703年の元禄地震、1923年の関東大震災、1923年の関東大震災から80年目（今年）ある程度切迫している地震

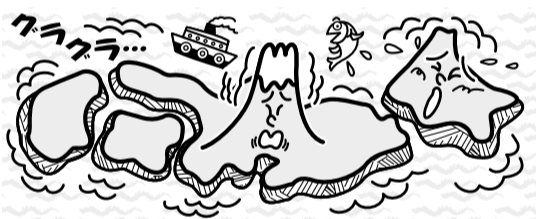
広がる防災ネットワーク

災害時協力協定締結進む

そこで、市では、市民のみなさんにも食糧や水の備蓄や応急救命技術の取得など防災行動力の向上をお願いするとともに、市内の企業や各種団体にも様々な協力をお願いを働きかけています。それぞれが平常時に活用している施設、設備、

(表1) 東京に被害が発生した主な地震

海溝型地震	発生年	直下地震	元禄地震からの年数
元禄地震	1703年		
	1782年	天明小田原地震	(79年後)
	1855年	安政江戸地震	(152年後)
	1894年	東京地震	(191年後)
関東大震災	1923年		(220年後)
	2003年	関東大震災から80年目(今年)	
	20XX年	ある程度切迫している地震	
?	2XXX年		



切迫性を警告しています。このように現在の状況は、大地震発生の可能性が日々高くなっていくことを忘れてはいけません。

直下地震は

予告なく

懸念される直下地震の発生の予知については、現在ほぼ不可能とされています。それゆえ直下地震は、ある日突然、予告なく私たちを襲います。

大きな直下地震発生時の瞬間は、兵庫県南部地震時のテレビ映像などで、覚えている方も多いでしょう。

就寝中だった人は布団の上を転がり、コンビニエンスストアでは激しく揺れ動くカウスターに店員が必死につかまり立つことができず、



この2つのタイプの地震の関係は表1のとおりで、元禄地震のあと70年ほどは静穏な状態が続く、その後直下地震の発生が始まります。最初は被害が少なかったものの、次第に大きな被害を出した安政江戸地震や東京地震などの地震が頻発し、ついに関東大地震が発生しています。

大地震は起きたら最後、揺れがおさまるまで、人はほとんど何もできません。このときの犠牲者の約9割は、家具・家屋の下敷きになったためです。

忘れなさい、大地震は必ずきます

これら過去の地震データなどから、関東大震災発生後80年経過した現在、南関東地域直下では地震の活動時期に入っていることが伺えます。国の中央防災会議も、南関東地域を襲う直下地震発生の

その時

三鷹市の被害は?

平成9年に東京都が公表した「東京における直下地震の被害想定に関する調査報告」によると、三鷹市の被害が最

街頭消火器

大地震時に予想される火災や日常で発生した火災の早期消火を目的に配備されています。設置場所は、家屋の外扉やフェンスなど市民みなさまに協力をいただいたき、およそ10分に1本の割合で設置することとしています。

もし近くに街頭消火器がなく、設置場所を提供していただける方がおりましたら、ぜひ協力をお願いいたします。

今後、三鷹市が公表した被害想定に基づき、井戸の充実を図る予定です。

震災用井戸

災害時に断水したときに、井戸の近隣住民のみならず、生活用水を供給することを目的として、井戸の所有者の協力により市が指定しています。

また、震災用井戸を給水所として開設するときは、所有者の方と市が協議し、給水の方法および時間等を定めます。

今後は井戸所有者のみならず、みなさまに協力をお願いし、井戸の充実を図る予定です。

避難場所等掲示板

避難場所および避難所掲示板は、災害時の広域避難場所、一時避難場所として避難所となる施設に設置されています。中でも避難所施設の標示板には、避難所内の設備をマークで標示しています。



生死を分けるポイントの備えと心構え

大地震発生時にみなさんの生死を分けるキーは、地震が起きる前の日ごろの心構えと備え、そして地震が起きた時

大地震発生時にみなさんの生死を分けるキーは、地震が起きる前の日ごろの心構えと備え、そして地震が起きた時

(表2) 直下地震被害想定に基づく三鷹市の主な被害状況

冬の午後6時、晴れ、風速6m/秒のときに、震源:区部直下、大きさ:M7.2、震源の深さ:地下20~30kmの地震が発生した場合					
建築物倒壊数(倒壊率)	全半壊1,243棟(3.6%)				
焼失面積(焼失率)	3.81km ² (23.1%)				
焼失棟数(焼失率)	11,671棟(33.4%)				
死傷者	死者:71人、重傷者:224人、軽傷者:1,349人				
自宅外避難者と避難所生活者	<table border="1"> <tr> <td>発災1日後</td> <td>自宅外:58,079人 避難所:37,751人</td> </tr> <tr> <td>発災1月後</td> <td>自宅外:37,625人 避難所:24,456人</td> </tr> </table>	発災1日後	自宅外:58,079人 避難所:37,751人	発災1月後	自宅外:37,625人 避難所:24,456人
発災1日後	自宅外:58,079人 避難所:37,751人				
発災1月後	自宅外:37,625人 避難所:24,456人				

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。

このように来たる大地震に立ち向かうためには、市民のみなさん一人ひとりの心構えと行動が重要です。

「みんなのまちはみんなで作る」を合言葉に、これからみなさんといっしょに災害に強いまちをつくっていきましょう。